

## 外国人目線で整える、和歌山県の「おもてなし」体制

「和歌山県観光振興実施工動計画＝観光振興アクションプログラム2019」によると、昨年一年間に国内外から和歌山を訪れた観光客数は3461万9千人、外国人宿泊客数は47万9千人と、いずれも過去最高だった平成28年（それぞれ3487万人、50万人）につぐ史上2番目の記録となった。

県では、この国内外からの観光客の和歌山県への関心の高まりを継続、加速させようと、和歌山の魅力を『水の国、わかやま。』『サイクリング王国わかやま』『わかやま歴史物語』（歴史・浪漫）、『世界遺産』の4テーマを中心にPR活動を行っている。

古座川ではカヌーに乗ると、その高い透明度から、宙に浮かんでいるように見える「空飛ぶカヌー」＝写真＝が人気だ。こうした清流や滝・温泉、海岸線などの観光スポット、醤油、酒などのグルメ、カヌーやラフティングといったアクティビティなど、和歌山には水に関連した観光資源が多い。

サイクリングは紀伊半島自然の雄大さを実感できるアクティビティだ。「WAKAYAMA800」として県内全域に800キロ超のサイクリングの推奨ルートを設定。ルート周辺のグルメや温泉などと組み合わせたPR、スマートフォンを使ったスタンプラリーを行っている。

また和歌山には古く神話の時代から始まる歴史や伝承が多い。それらを活かした100の旅モデルを設定し、「わかやま歴史物語スタンプラリー100」キャンペーンを展開する。

特に欧米系外国人旅行客から人気の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」エリアでは、高野山を訪れる観光客を熊野エリアにまで足を伸ばさせるために、「高野山・熊野」聖地巡礼バスの外国語パンフレットや9言語対応のホームページなどの整備が進む。

また、従来の外国人向けの観光パンフレットは日本語パンフレットを外国語に翻訳したものが多かった。しかしそれでは、歴史や風俗、風習など日本についての基礎知識がない外国人に魅力が伝わらない。和歌山では、外国人が書き起こした外国人が理解できる文章をもとに他の外国語に翻訳したものが増えつつある。また、バス停留所の表示板に外国語表記を加える、洋式トイレを整備するなど、地道な整備も進む。

外国人観光客に的確に和歌山の魅力を伝え、地元では外国人目線をもってご当地の「おもてなし」体制を整える。和歌山県の取り組みが、他都道府県の担当者にも参考になるはずだ。

産経新聞社 大阪本社 メディア営業局企画開発部長 根来隆昭



古座川での「空飛ぶカヌー」。水の透明度が高く、宙に浮かんでいるように見えることから、そう呼ばれる  
(写真提供：和歌山県)